

ダイヤモンドのように 自分を磨く努力



本間社長

分社グループ各社は、決算を終え新たな事業年度のスタートを切っております。

母体となる大陽工業は来年8月で設立70年目を迎えます。又企業の持続性については、創業者である酒井オーナー・関山オーナー、両氏の言葉の中に普遍的な概念として凝縮されていることは皆様ご存知のとおり過去の出版物に記載されてい

分社グループ会報
第48号



2016年(平成28年)
8月2日 火曜日発行

《発行元》
分社理念研究所 事務局
〒141-0031
東京都品川区西五反田8丁目
11番21号五反田TRビル3階
TEL 03-5496-1810
FAX 03-5496-1881
<http://www.bunshagroup.com/>

さて、本題に入ります。最近のニュースをみて、日本の社会には、「なんでこんな人が」と思われる、実に情けない説得力のないリーダーの姿が目立ってきたようには感じていないの私だけではないと思います。

人間は、先天的に生まれもった資質や能力が、後天的な環境によって発達していくと考えられており、誰しも生まれもった才能があるだろうし、成長する過程での家庭環境や教育などがかなり関係すると思いますが、それにしても、多くの人を代表する一部トップの資質が低下していることが最大の課題で、社会や生活、会社や業務に悪影響

を与えていると感じます。それは、長年にわたって、修身(自分の行為を正しくし、身を修め整えること)とか修養(知識を高め、品性を磨き、自己の人格形成につとめること)など、自分を磨く努力を怠ってきたせいではないでしょうか。信頼される社会人、説得力のあるリーダーを目指すためには、常に自分を磨く努力を怠ってはなりません。

分社十則に次の言葉が書いてあります。

- 一、象にダイヤモンドは磨けぬもの。小さく、強く、悠々行くべし。
- 一、人間はダイヤモンド、社員こそ真の財産。人を磨き、輝かせるべし。
- 一、自分を磨き輝かせるべし。
- 一、分社グループはダイヤモンドのネックレス。独立しつつ集合、集合しつつ独立すべし。

分社グループが持続的に発展し続けることは、

当グループの最大の目的ですが、今の時代、経営者はじめ社員一人ひとりが自分を磨く努力を惜しまないよう実践していくべきだと考えております。

分社グループ 社長会開催

平成28年6月21日、コートヤード・マリオット銀座東武ホテルにおいて社長会が開催されました。篠崎会長より開催の挨拶をいただいた後、事務局よりグループ全体業績推移、月次業績推移、グループ各社新年度事業計画、金融機関別借入金残高明細、景況感等について報告がありました。また7月20日(水)開催の「品質管理・環境部会」(㈱マグトロニクス東原工場見学並びに勉強会開催)について座長の本間社長と菅社長よりご案内がなされました。

最後に酒井代表より「4～6月までの業績は各社ともかなり苦戦しているようですが、後半に期待するとともに「他とは違うことをやろう」というニッチの思考を積み重ねる未来を目指しましょう」と挨拶され終了致しました。



平成28年株主総会・吉生会開催



酒井代表



木村副代表

平成28年5月27日（金）、6月21日（火）の両日、コートヤード・マリOTTホテルにおいて株主総会が開催されました。開催に際し酒井代表は、昨年度の各社の業績は全体的に低調だったように思います。ですが私たちのグループだけでなく日本の多くの製造業がそうであり、また世界的に低調な波に飲み込まれているようにも思います。そんな中で私たちは、小さくても自分の特色を持ち、自分のマーケットを守りながら輝きを放てる企業になることだと思えます。輝くためには一人ひとりの意識も重要です。今期も共

に頑張っていきたいと思います。と挨拶を述べられました。また、木村副代表は、前期の決算内容からどの会社も必死に奮闘している状況がうかがえました。内外ともに厳しい環境下ではありますが、今期の各社の事業計画には明るい話題もあり、楽しみに思いました。会社の一歩の健康はやはり収益を出すことだと思えます。是非一つひとつ着実に積み上げながら楽しい、明るい一年を過ごして頂きたいです。と期待と激励の言葉を述べられました。株主総会終了後の吉生会は、各社間の交流と情報交換の場となり、明るく賑やかなひとときとなりました。



縮めの挨拶をする篠崎会長(右)と会場の様子



komax（後背部から撮影）



組立工程



ケーブル・ハーネス加工

「品質管理・環境部会」開催

〔株マグトロニクス 東原工場見学〕

平成28年7月20日（水）、株マグトロニクス東原工場1階セミナールームに於いて「品質管理・環境部会」が開催されました。

座長の本間社長の挨拶に続き菅社長より会社説明を受けた参加者は、5班に分かれ操作盤・制御盤の組立、ケーブル・ハーネスの加工を見学しました。

清掃と整理整頓が行き届いた工場棟内は、従業員一人ひとりの働きやすさにも細かく配慮されており、淡いグレーを基調としたやわらかで清潔感あふれる事務棟内（営業部門、開発部門、経営管理部門など）は、社内の風通しの良さを感じさせられました。

別棟ではヨーロッパで大変注目されているソフトウェア(ePLAN)と産業機器(komax)を導入し、今まで手作業でし

か出来なかったものを自動化する試みに着手していました。導入された産業機器は設計データを入力すると複数の線種から線長、圧着端子まで自動で算出し、加工後のケーブルは束ねてテープで仮止めし、装置内にすぐに組み込める状態で排出します。日本ではまだ導入している企業が非常に少ないため、参加者も大変関心を寄せていました。

〔勉強会〕



勉強会の様子

工場見学終了後、慶應義塾大学大学院経営管理研究科委員長・教授の河野宏和先生をお迎えし「生産性改善に向けたの視点と企業体質強化」というテーマでご講義頂きました。グローバル化やIT化が進み、働く環境は多種多様に変化していますが、現場の苦勞を共有化し、常に安全面に配慮しながらQCDを守る努力をたゆまず続ける大切さを改めてご教授頂きました。